



大日本印刷株式会社 様

Office 365への移行に伴いSaaS活用に最適なネットワークを整備 リモートアクセス環境のユーザ利便性向上とセキュリティ確保を実現

大日本印刷(以下、DNP)は、社内コミュニケーションインフラの更新を機に、Office 365への移行を決定した。これに伴い社内ネットワークの見直しが必要となり、IIJにアセスメントを依頼。その結果を受けて「IIJクラウドプロキシ設定自動化ソリューション for Office 365」のほか、「IIJフレックスモビリティサービス」や「IIJ Omnibusのクラウドプロキシ機能」など最新サービスの導入を決定。社内外からSaaSを快適かつセキュアに利用できる環境を整えた。

課題	期待される効果
<ul style="list-style-type: none"> 社外からのリモートアクセスには遅延や通信の切断が発生していた Office 365の導入にあたってネットワークの見直しが不可欠 利便性向上を目指しつつ、セキュリティポリシーは絶対に遵守 	<ul style="list-style-type: none"> リモートアクセス時のストレスが減りユーザ利便性が向上 クラウドプロキシ機能の導入でネットワークと運用の負荷を軽減 個人端末の禁止やアクセス制御でセキュアにSaaS利用を推進



大日本印刷株式会社
情報システム本部
システム推進部
部長
稲毛 達也 氏



大日本印刷株式会社
情報システム本部
システム推進部
森 紳人 氏



株式会社DNP情報システム
ICT企画開発本部
ICTサービス開発部
セキュリティ対策センター
リーダー
小山田 泰史 氏



株式会社DNP情報システム
ICT企画開発本部
ICT基盤開発部
平 隼人 氏

導入前の課題

社内も社外も変わらず快適に SaaSが活用できる環境の整備

世界最大規模の総合印刷会社として知られるDNPは、現在では事業領域を情報コミュニケーション、生活産業、エレクトロニクスのほか、環境、エネルギー、ライフサイエンス分野にも拡大。さまざまな社会課題を解決する新しい価値を創出し続ける「第三の創業」を掲げた変革の推進過程にある。

そのDNPで課題となっていたのは、オンプレミスで運用し、DNPグループの4万人近い社員が利用している業務アプリケーションの刷新だ。システム推進部の部長を務める稲毛達也氏は、「スクラッチ開発した各システムは老朽化が激しく、機能拡張や

改修を続けることはもはや困難。社内外のコミュニケーションを担ってきたシステムにも更新時期が迫っていました」と振り返る。

DNPが目指したのは、クラウドサービス(SaaS)の活用である。「営業担当者をはじめ外回りが多い社員を中心に、社外からも社内と同じようにシステムを利用できる環境を提供し、働き方改革の一端を担っていきたいと考えました」と稲毛氏は語る。

そうしてDNPは社内の業務アプリケーションをOffice 365に移行することにした。Office 365のようなSaaSを万単位の大規模なユーザが利用するとすれば、必然的に社内ネットワークのトラフィックは激変する。「インターネット接続回線はどれくらい帯域を増強すればよいのか、既存のプロキシサーバは負荷増加に耐えられるのかな

ユーザプロフィール

大日本印刷株式会社

所在地 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
創業 1876年10月9日 従業員数 38,627名(連結)
資本金 1,144億6,400万円(2018年3月31日現在)



世界最大規模の総合印刷会社。1876年の創業以来、幅広い事業部分野で常に新しい製品やサービス、革新的なビジネスの仕組みを生み出し続けてきた。企業理念は「人と社会をつなぎ、新しい価値を提供する」。
<https://www.dnp.co.jp/>

ど、答えを見通せない課題が山積していました」と語るのは、システム推進部の森紳人氏である。

加えて社外からOffice 365を利用する場合、社員の端末からインターネットを経由したダイレクトな接続はセキュリティポリシーで認められない。VPNを経由して会社のコントロール下のプロキシサーバにいったん着地させ、そこからOffice 365にアクセスさせる必要があるのだ。とはいえ、従来からも一部社員に提供してきたリモートアクセス環境では、「ネットワークの遅延や、通信が切れるたびにやり直さなければならないログイン認証など、多くの不便を強いていたのが実情です」と森氏は語る。

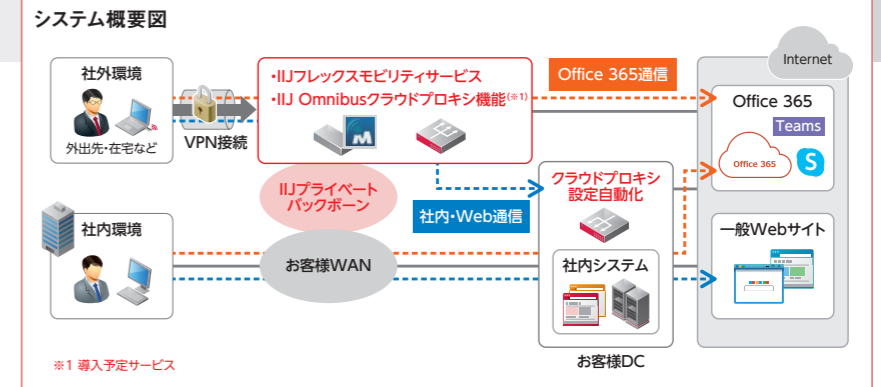
選定の決め手

アセスメントと豊富な対応力を評価 PoCで効果を実感

上記のような課題を解決するために、まず既存のネットワーク環境の状況をしっかり把握する必要がある。そこでDNPは2018年5月、IIJにアセスメントを依頼した。

「同様のアセスメントを実施しているベンダーは他にもありますが、その後の解決策となる法人向けサービス・ソリューションを豊富に用意しているという点で、IIJの右に出るベンダーはありませんでした。また、通信事業者ならではのセキュリティに対する徹底した施策にも大きな安心感がありました」と、稲毛氏はIIJを選定した理由を語る。

そして、このアセスメントに基づいてインターネット接続回線を増強すると共に、トラフィックの最適制御を行うために導入したのが、「IIJクラウドプロキシ設定自動化ソリューション for Office 365」だ。その名の通りOffice 365の煩雑なルーティング設定を自動化するもので、不定期かつ頻繁に変更されるOffice 365のアドレス情報を自動で取得。定期的に設定を最適な内容に更新す



ることで、管理者の運用負荷を軽減する。

さらに、社外からもOffice 365を快適かつ安全に利用できるように導入を決定したが、当時まだリリース前だった「IIJフレックスモビリティサービス」だ。「切れないVPN」を訴求するリモートアクセスのサービスで、通信が一時的に遮断した場合でもVPNセッションを継続する。通信が回復し次第、ユーザはそのまま作業を続けることができ、従来のように改めてVPNのログインをやり直すといった手間は不要。また、通信回線の輻輳やパケットロスがあっても安定した通信とエラー補正を行う独自のUDPプロトコルを採用し、遅延に強い快適なアプリケーション利用を実現する。

同ソリューションのPoC(概念実証)にあたったDNP情報システムの平隼人氏は、「世の中でまだ実績のないサービスということ当然不安はありましたが、キャッチフレーズどおりの『切れない』『快適な』リモートアクセスを確認し、十分に実用に耐えられると判断しました」と語る。そして「試しに部内出張者に使わせてみたところ、『新幹線の中でもVPNセッションは切れなかった』と満足した様子でした。また、遠隔地の相手とのWeb会議においても社内のLAN環境と遜色なく快適でした」と強調する。

導入後に期待される効果

セキュアで安定したネットワークを実現 業務スタイルの変化にも柔軟に対応

DNPは、2019年3月中旬よりIIJフレ

クスモビリティサービスの本格運用を開始している過程にある。「営業や企画部門を中心とした社員から申請を受け付け、IIJフレックスモビリティサービスのクライアントソフト(エージェント)の配布を開始しました。最終的には数千人規模の社員が、社外からもOffice 365を利用できるようにしたいと考えています」と稲毛氏は計画を示す。

DNP情報システムの小山田泰史氏は次のように評価する。「ユーザ認証に加え、許可されていない個人端末からの接続を禁止するデバイス認証、IPアドレスや時刻によるネットワークアクセス制御、アクセスログの取得などにも対応しています。これならDNPの厳しいセキュリティポリシーを満たした運用が可能です」。

また、「IIJ Omnibusのクラウドプロキシ機能」がリリースされ次第、導入することを予定している。IIJフレックスモビリティサービスを通過してくるトラフィックをクラウド上で振り分けるので、「社外からのOffice 365利用に対しても厳重なセキュリティポリシーを適用しつつ、そのトラフィックをインターネットブレイクアウトすることで負荷分散を図れます」と森氏は期待を寄せる。

さらにその先では「IIJ Omnibusサービス」をベースとしたSD-WAN(Software-Defined WAN)の仕組みも取り入れ、クラウド型ネットワークインフラへの拡張を検討。全国の拠点を包括しながら、ITの利用スタイルの変化に柔軟に対応できるデジタル・ワークプレイスを実現していく構想だ。

■ 導入したサービス・ソリューション ■

- IIJフレックスモビリティサービス
- IIJクラウドプロキシ設定自動化ソリューション for Office 365
- インターネット接続サービス
- IIJプライベートバックボーンサービス
- IIJプライベートアクセスサービス
- システムインテグレーション

・本記事は2019年2月に取材した内容を基に構成しています。記事内のデータや組織名、役職などは取材時のものです。
・会社名及びサービス名などは、各社の登録商標または商標です。

【お問い合わせ】

株式会社インターネットイニシアティブ
TEL:03-5205-4466
E-mail:info@ij.ad.jp
URL:www.ij.ad.jp



Internet Initiative Japan